

項目	確認事項	届出内容	
基本情報	大学等名1(代表大学等)	関西大学	
	大学等名1(代表大学等)※カナ	カンサイダイガク	
	大学等名2(連携大学等)		
	科目名	インターンシップ(学校1~3)等 ※学校インターンシップ	
	学部・研究科等名	全学部・研究科	
	担当教職員名・役職	品川哲彦 教授・高大連携センター長	
	受講者数(H28年度実績)※インターンシップ参加者数	128	
	受入企業等数	178	
	受入企業等名	大阪・兵庫・京都など近畿圏の約170の小・中・高・支援学校・園	
	インターンシップの分類	1.長期(概ね1か月以上)インターンシップ,4.他県をまたぐ広域インターンシップ,5.低学年(大学1年次~2年次程度)からのインターンシップ	
上記以外のインターンシップの分類(記述欄)			
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい	
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事	
	1-2.以外の就業体験の内容(記述欄)		
	1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	学校業務に従事する上で学生の申込校(園)に派遣することについて、教員を中心とした面接を行い派遣先を決定している。面接通過者は、事前講座の受講(必須)をした後、インターンシップとして教育実習では体験できない業務(授業補助、補習・勉強会補助、運動会・文化祭などの行事補助、部活動補助など)を学校・園で行う。研修後は事後講座(必須)として、代表者による発表やグループ討論によって活動の振り返りを行っている。	
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい	
	2-2.該当するインターンシップの内容	2.当該インターンシップは、キャリア教育科目として実施している	
	2-2.以外で実施しているインターンシップの内容(記述欄)		
	2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)	学部1~4年次、M1~2	
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)	2単位	
2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	学校インターンシップは教職志望者以外でも参加でき、児童・生徒と接することにより大人としての自覚を生むと同時に、普段目にするここのない教員の業務にふれることで社会人として成長することができる。また、1年次から参加できるため、早期に自分自身の適性を確認することができる。		
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい	
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法を身に付ける授業等を行っている。3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている。4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している	
	3-2-1.以外で実施している事前学習の内容(記述欄)		
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている。2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている。3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている	
	3-2-2.以外で実施している事後学習の内容(記述欄)		
	3-2-3.該当するモニタリング	3.その他	
	3-2-3.以外で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	インターンシップ中に、教職員が学校・園に赴き、受入担当者と面談を実施している。	
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	オリエンテーション(派遣内定者対象)、ビジネスマナー講座、教職キャリアデザイン講座の実施。教職キャリアデザイン講座においては、受入経験のある学校現場の教員を招き、今後教員を目指す学生への期待と要望等について講演してもらい、学生がそのメッセージを受け止めたうえで今後のキャリアデザインを明確にできるように、一貫性のあるワークシートを作成する。	
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	代表者による発表の後、教職キャリアデザイン講座で作成したワークシートを元に互いの目標や将来になりたい社会人像について、学生同士で討論を行う。また、学校・園の受入担当者にはアドバイザーとして講評をいただく。	
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)		
	要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
		4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている
		4-2.以外で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	
4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	事前講座毎にアンケートの記入、統括として事後講座後のアンケートの記入、研修日毎に作成する業務日報・報告書の確認を行う。		
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい	
	5-2.該当する実施期間	4.その他	
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)		
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)		

要素⑤	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.以外の実施期間の内容(記述欄)	36時間以上(学校・園の受入担当者調整を行う)
	5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	原則5日以上研修を行うこととしているが、研修時間が36時間以上であれば日数が満たなくても可としている。なお、受入にあたっては学校・園の受入担当者が短期連続型か長期型(8月上旬～12月中旬)を設定できる。
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	1.企業や産業界にとっての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してインターンシッププログラムを設計している。2.大学等が行う事前・事後学習等に企業等も参画し、協働して実施している
	6-2.以外で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	
	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	インターンシップの受入先と適宜相談して内容を調整している。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	<a href="http://www.kansai-u.ac.jp/koudai/gakuinte/">http://www.kansai-u.ac.jp/koudai/gakuinte/</a>
問い合わせ先	大学等名	関西大学
	担当部署名	社会連携部高大連携センター
	担当者役職名	
	担当者氏名	木下賢治
	電話番号	06-6368-1184
	メールアドレス	koudai@ml.kandai.jp